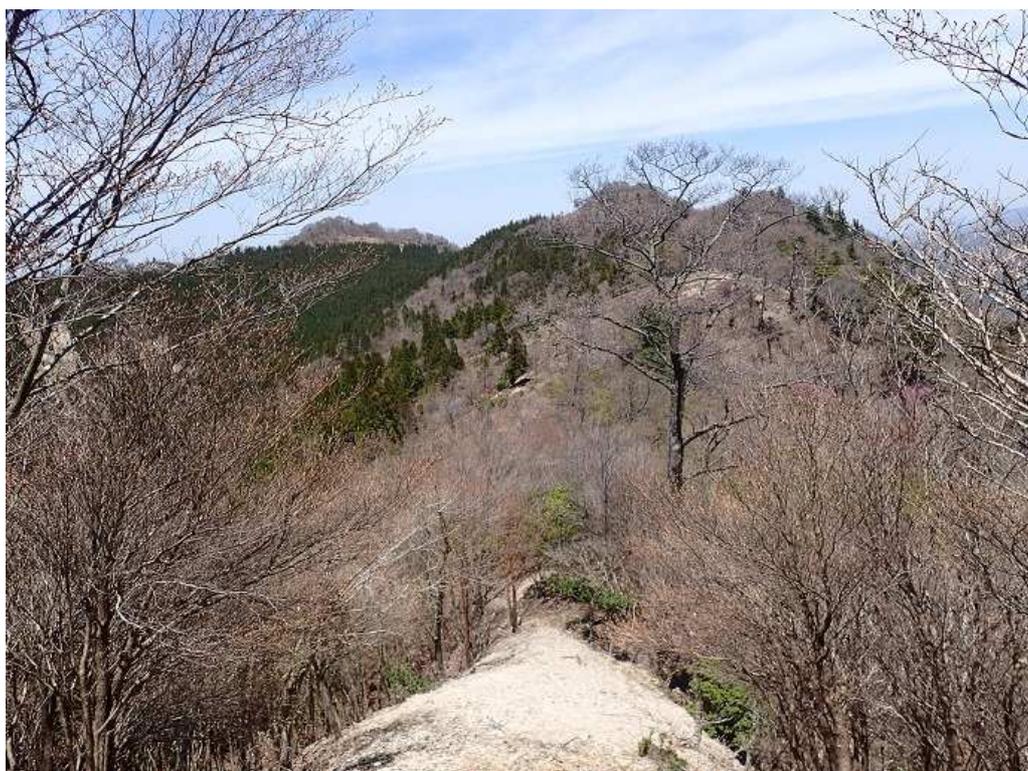


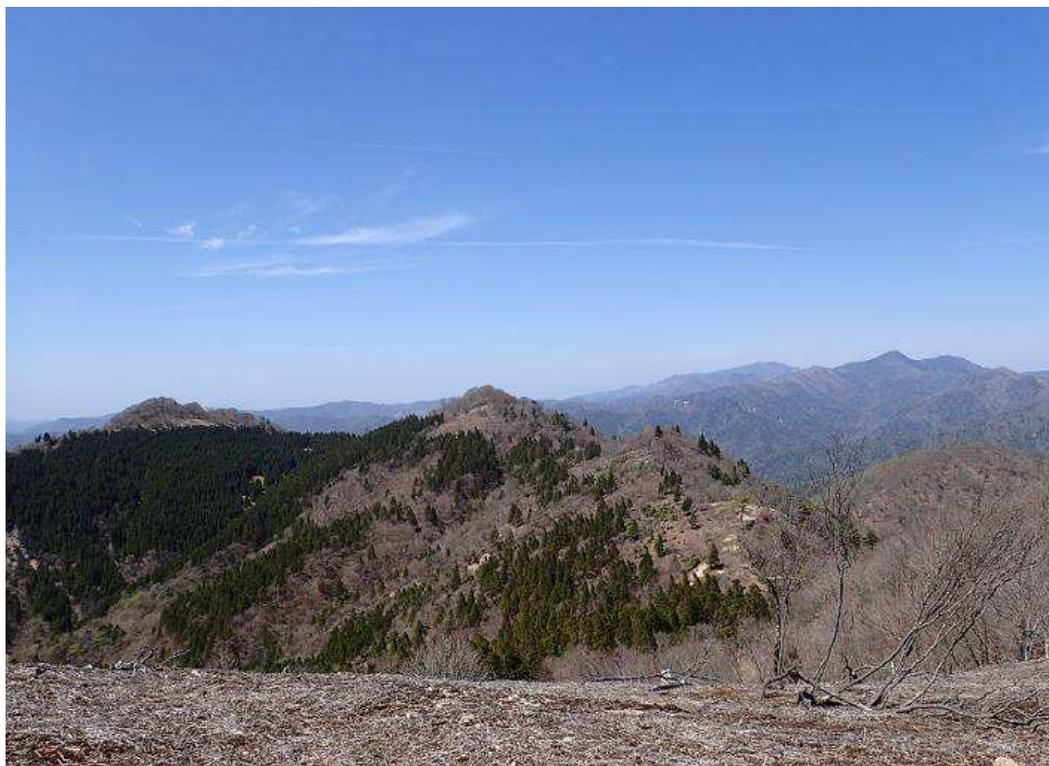
熊野の秘峰
八人山縦走



秘峰 八人山縦走

【2017/5/07~5/08】

単独縦走 5月8日 南・中・西八人山



【中央が中八人山、左が西八人山。右の鋭峰が釈迦ヶ岳。その後ろに弥山八経ヶ岳。南八人山からの眺望】

土地の人達はこの山域を「中八」と呼んでいる。

定かではないが、八人の所有者がいて共有されていると聞く。

真ん中の山が二等三角点(内原)中八人山 1396.9m、中八人山から見て南側が南八人山 1408m、西に西八人山 1388m、北に下八人山 1066m、北東に奥八人山 1286mがある。

この山並の中では南八人山が一番標高が高くて、山頂は広々としている。

かってこれらの山は深いスズタケに被われた人を寄せ付けない山であった。

2009年5月1日に持経小屋に一泊して奥駈道の証誠無漏岳から奥八人山に行ったことがある。地図には、証誠無漏岳から西に派生する奥駈け枝稜はスズタケに被われた悪路と記載されていたが、すでにその時点で笹枯れが進み、稜線から眺める大パノラマに心躍らせたことがあった。

この山域へのルートは奥駈道の証誠無漏岳からと十津川村奥里の滝谷橋から入山して石仏山を經由して西八人山に至るルート。そして今回の十津川村大野片川(かたこう)から入山する3ルートが一般的であり、それ以外は各自の独自ルートとなる。

一昨年に行く機会があったが、行きそびれてしまったので再挑戦となる。

地形図をみると、奥八人山から南に下ると西の谷林道に出るので、この独自のルートで奥、中、西、南八人山も計画したが、白谷トンネルの突然の通行止めと林道通行の事前許可が必要になるなど面倒なことが重なった。

大野片川からは地形図のコンタの混み方をみても南八人山までは直登である。

あえて厳しい直登コースを選んだ。

73歳誕生月の挑戦である。

装 備

1. 靴 モンベルアルパインクルーザー スパッツ
2. 服装 夏仕様 半袖Tシャツに帽子 メッシュベスト
着替えのシャツ×2
3. 装備 雨具 ヘッドライト×2 ハーネス エイト環 スリング×2 カラビナ×3
ザイル8mm×20m ストック 森林香 ナイフ ライター ウエットタオル×2
スマホGPS 山ナビGPS コンパス 地形図 エアリアマップ 救急薬 熊ベル
4. 食料 昼食用菓子パン×3 魚肉ソーセージ×2 カロリーメイト一箱 牛乳350ml×1
真水500ml×1 ポカリ500ml×2 1000ml×1 紙パックリンゴジュース200ml×2
5. 掲示用山名板 南八人山 中八人山 西八人山 ㊟プレート×4

行 程【実測】

大野川高津川（こうづかわ）出合広場 6:50-7:33 植林小屋尾根取り付き 7:45-9:15 P1069
-9:56 モノレール分岐-11:00 南八人山（昼食） 11:38-12:03 中八人山 12:15-12:25 西八
人山 12:45-12:55 中八人山-13:28 南八人山-14:00 モノレール分岐 14:27 P1069 分岐-
15:20 高津川植林小屋 15:40-16:18 駐車場取り付き口

前泊 5月7日（日）晴 高津川大野川出合広場で車中泊

行仙荷揚げ口 15:30-（R169 北山村一本宮
-滝 R425）大野片川（おおのかたこう）17:38
-大野川又六谷（そうろくだに）分岐林道終
点-18:10 高津川取り付き広場
取り付き広場で夕食・車中泊

新宮山彦ぐる一歩のゴールデンウイーク
行仙宿小屋番の最終当番として5月6日-
7日の二日間を行仙宿で宿泊者の対応にあ
たった。連休最終日で来宿者も少ないので1
4時に小屋をでた。

行仙宿では修復を終えた役行者像の開眼
供養法要が5月17日に行われることにな
り、本山修験宗聖護院門跡宮城泰年門主他5
名をお迎えすることになった。

門主様は86歳とお聞きした。

龍谷大学を卒業後新聞社に入社。ベトナム
戦争やポルポト政権下のカンボジアなどの
従軍記者として活躍された経歴のあるすご
いお方である。

92歳の我が玉岡相談役も来山の予定だ。
沖崎さんと児嶋さんがモノレールに客席を
設置するために奮闘努力をされていた。

15時頃に完成したので3人で試乗して
みた。乗り心地と見栄えはなかなかのものが
少し狭いようだ。児嶋さんに特製コーヒー

を淹れて頂き15時30分に次の目的地大
野片川に向かって出発した。

R425からR169の和歌山県飛び地北山村を
通りR168に抜けた。この道はかつて酷道で
あったが、現在は素晴らしい山間のスカイラ
インのように変貌している。馴染みの本宮大
社前を通過して滝から再びR425に入った。

ほどなく大野への分岐である「大野出合」
に差し掛かった。ここからは初めての道であ
るが、地形図では舗装道路の終点が八人山へ
の取り付きになっており、特別に気を遣うこ
ともなく廻りの風景を楽しみながら走った。

大野出合から片川までが村道大野線、それ
から先は林道大野線となっている。

村道は落石もなく良く整備されている。森、
大野、片川と三つの集落を通過するが、集落
の出合など、道が分岐しているところは注意



して大野川に沿って走った。

道路の要所に「せせらぎの里」という看板が目立つ。この先にリゾート地があるらしい。

大野では山の斜面や狭い平地に相当な数の吉野式家屋が建っていた。よくもこんな山の中に集落があるものと驚く。

快適な舗装路を走っていくと、道路脇に登山届けのボックスが立っていた。「？」と思いつつそのまま車を走らせた。その内に舗装路がなくなり地道となり、落石も目立つダートな道に変わってきた。何だか違和感を覚えたがとにかく終点まで行ってみようと思えば進むと渓谷に阻まれた林道終点に行き着いた。

これは完全におかしいとスマホのGPSで確認してみると、何と石仏山の麓まで来ている。目の前の谷は石仏山からの又六谷（そうろくだに）だ。右手に西八人山を源とする大野川本谷となっていた。

通過してきた登山届けの広場が取り付きのキャンプ適地なのだと直感して戻った。

18:10 目的地に到着。



大野川 高津川出合



出合の登山届け

急いで食事を済まさないで暗くなる。

その前にこの地が目的の地なのか周囲を歩いて確認する。右手に杣道があり、取り付きが確認できた。高津川（こうづかわ）に架かる橋の上から清流を覗くと、アマゴが川面を飛ぶ虫を補食するために何匹も飛び跳ねていた。

今夜はマイカーをフルフラットにして、いつも寝ている寝具をそのまま持ち込み寝台車にしてきた。車中泊ではこれが一番安まる。窓を閉め切ると溪を流れる濁流の音さえ聞こえなくなる。暑いときには窓に網戸をセットすると風が通り快適な空間となる。

湯を沸かすのにもカセットフーを持ってきた。「サトウのご飯」に女房が作ってくれた野菜のお浸し。鯖の缶詰。たまご掛け納豆にラーメンを作った。

ビールもいつもより多い2本を飲んだ。

食べ終わると8時になっていた。

お腹が一杯になるとすぐには眠れない。

食事は6時には終わらせておかないといけない。今日は行仙に少し長居をしてしまった。布団に潜り込み、携帯ラジオをセットするが、谷間ではなかなか受信することが難しく、受信出来ても海外の短波放送を聞いているみたいだ。

外に出てみると寒い。温度計をぶら下げておいたら9度まで下がっていた。

露を避けるために濡れては困る物を運転席に取り入れ、獣除けと虫除けのために小型バケツに入った虫除けキャンドルを灯した。

これで鹿やイノシシも寄せつけない。

草むらにライトを向けると光る物が二つ見えた。相手は確実に狙っているのだ。

ラジオは諦めて10時頃に寝た。

5月8日（月）晴

am 5時 気温7℃ 湿度78%

八人山縦走

登山口－高津川沿い植林小屋取り付き－P1069－モノレール分岐－南八人山－中八人山－西八人山－中八人山－南八人山－モノレール分岐－植林小屋－登山口

目覚めると5時だった。

外は寒い。ダウンのジャケットを持ってき

て良かった。温度計を見ると7℃まで下がっていて、谷間の湿った空気で寒さが増す。

いつも出発までに時間が掛かり、段取り良くしようと、携行品は昨夜の内にザックにセットした。昨夜聞いていたラジオを持っていくのに探したが見つからず、もたもたして、出発は6時50分となってしまった。

73歳記念登山の第一歩だ。

高津川に沿って、緩やかな勾配で、杉の植林に杣道が延びている。10m程登ると平坦な道となる。樹間から溪が見え隠れする。時々足を止めて、アマゴの確認をする。

「おる」。大型は少ないが2-3歳漁を沢山確認できた。この溪には釣り人は余り入っていないようだ。途中、杣道に掛かる溪が抜け落ちている。工夫をすれば通れそうなので恐る恐る通過した。杣道に架かる栈道や間伐材のハシゴは年月が経っているのか、殆どが腐っており油断ができない。



抜け落ちた杣道

歩き始めて40分ほどで尾根への取り付き口である植林小屋に到着した。右の山手に

延びる道もあったが、尾根のある対岸に渡った。山テープが散在してあり、取り付きが間違いないことが分かる。

右手奥にモノレール小屋があり、少し古いモノレールも駐機していた。



植林小屋



対岸のモノレール小屋

右手に高津川本谷、左手に北谷が深く切れ込んでいた。北谷に沿ってP1069の尾根に乗るように取り付いた。テープがいくつも有るのでよく分かる。

7:45 尾根道に取り付く。

すぐに尾根の登りが始まった。右手からモノレールのレールが延びてきている。このモノレールは何処まで行っているのだろう。地形図から判断すると中八人山か南八人山だろう。今日は以外と楽に行けそうだ。道迷いもなさそうだ。モノレールに沿って歩いて行けば自然と着くだろうと思った。

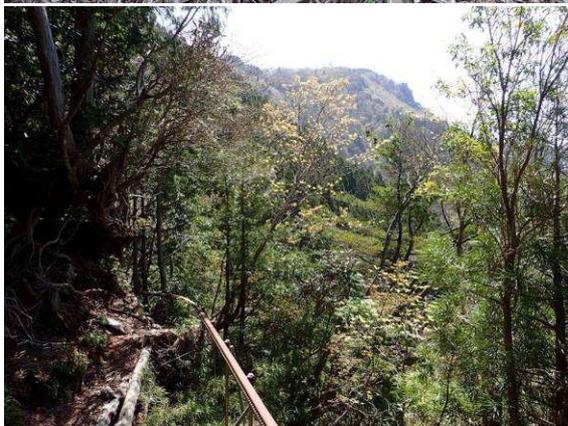
北谷に滝があるのかゴーゴと涼しそうな音を立てている。かってこの道は登山道として整備をされていたのか面影が残る。

モノレールもこの登山道に添って敷設されている。

登山道には鉄の栈道やハシゴが架けられているが、ことごとく落石や崩落によって破壊され、流失しているところもある。

モノレールのレールはしっかりしている。小さい石はレールの下をくぐり抜けるが、大きい石や崩落によってレールの足が抜けているところもある。

登山道跡を忠実に辿ることは出来なくなっている。



P1069 への直前尾根は岩稜帯で直登は難しく、岩稜を迂回する急角度のモノレールのレールにしがみつきながら登った。すぐにピー

クを巻き尾根に乗った。

折角なので P1069 にも寄って行くことにした。鞍部にザックを置き、空身で登ると 5 分と経たずにシャクナゲのブッシュの中にピークはあった。

9:15 到着。スタートから僅かな距離で 2 時間半近く掛かっている。

持参した⑩のプレートを千社札のようにぶら下げた。

これまでの道は崩壊、崩落、急勾配の連続で、気持ちに余裕がなく、見通しも着かないので、何とか理屈をつけて引き返そうかとも考えた。

P1069 からの勾配が比較的緩やかになり、それにつれ、歩くのにも心に余裕が出来てきた。40 分ほど歩くとビニールテープがぶら下がっていて、杣道が右に延びていた。地図を確認すると当初計画通りの尾根への道だと判断できた。モノレールとここで別れるようにして植林の道を歩いた。また、テープがでた。ここから直登なんやと植林と自然林の混成林をひたすらに登った。40 分ほどで南八人山の広いピークの南西端に辿り着いた。

要所要所にビニールのマイテープを付けてきたが、登り切った広場にはひととき長いテープをぶら下げ遠くからでも取り付きが分かるようにした。

11:00 丁度ピークと思われる地点に到着。

ここで 40 分ほど昼食にすることにした。

今日の昼食は菓子パン（あんパンとジャムパン）に 350cc の牛乳と魚肉ソーセージ 1 本。

あんパンを食べ始めるが食欲がなく、無理に食べると吐き気がする。緊張と疲れによるストレス障害を起こしている。

ソーセージも皮をむき損じて半分地面に落としてしまった。これは山の神様にお供えすることにした。牛乳も飲み切れずに半分を乾いた台地に返した。

それでも食事が終わったら元気が復活した。改めて周囲を散策するとピークは広い台地になっており、かつてスズタケに被われていたのが笹も枯れ、いまは何も生えておらず、草原になっている。

北と西方面はなだらかな斜面が続き、その先に中八人山と西八人山が双児峰として見

事だ。その先に釈迦ヶ岳と仏生ヶ岳が聳え、その彼方に弥山、八経ヶ岳まで見渡せた。天気予報では黄砂注意報がでていたが影

響はなかった。北面は角度が急で、風当たりが強いのか、ブナの大木が重なり合って倒れていた。



南八人山から北の眺望



南八人山 山頂

ピークと思われる倒木の根っこに山名板を取り付けた。根っこが風除けになり山名板が飛ばされずに済むだろう。

他に山名板は無かった。

ザックを全部置き、空身で出発しようと思ったが思い直して全部担いだ。サブザックは入れておくべきだったと後悔した。

11:38 中八に向け出発。

なだらかな斜面を下っていくと鞍部で三つ葉ツツジが満開になっており、その広場にチャペルと思わせる枯れ木が立っていた。

枯れ木の先に十字架のように左右に枝が伸び、その下に鐘を吊せるような空洞がある。

ベルをぶら下げたら礼拝堂になる。

自然の造形は面白い。

これまでとは違った快適な尾根には三つ葉ツツジ、オオカメノキ、アケボノツツジ、シクナゲの花が散見でき、貸し切り状態の深山を独り占めにしているようだ。

12:03 中八人山に到着。

二等三角点内原 1396.9m。

ひときわ大きな標石があった。

山名板はない。

開放感は南八ほどはなく、眺望も木々に遮られて良くない。

少し広い尾根に点が乗っている感じであ



る。隣りに西八人山が見えるが、奥八人山は
見えない。奥八まで行くと往復で一時間は掛
かりそうだ。下山後、自宅までの時間を考え
ると、前に来た奥八は省くことにした。

10分程滞在して西八に急いだ。

なだらかで開放的な斜面をアップダウン
すると、釈迦ヶ岳から弥山・八経の眺望が素
晴らしくしばし見取れていた。

12:25 到着。10分で着いた。

中八より小さなピークなので、ここも木々
に遮られて眺望はよくないが、深山・秘峰の
体を成している。双児峰の間はなだらかな谷
間となっており、多分モノレールはこの間に
来ているのではないかと思った。

西八人山にも山名板やテープなどもなく、
この山域が周囲から隔絶された位置にある
ことを感じた。日帰りでは難しく、前泊かテ
ント泊の必要があるから人が寄りつかない
のだと思った。

実際は開放的な高原であり、素晴らしい自
然と大パノラマが楽しめる眺望がある。

苦労して登った者しか分からない、至福の
一時である。

20分ほど滞在して下山することにした。

12:45 下山スタート。

シャクナゲのブッシュの中を下っている
時に熊ベルが付いてないのに気が付いた。

西八人山で落としたのか？

今日着用のズボンはモンベルのベルトレ
スのものをはいてきた。いつもはベルトに付
けるのだが、今日はザックの着脱ベルトに付
けたから、ザックを下ろした時に外れたのだ。

ザックを下ろしたところはP1069、南八人
山、中八人山、西八人山だ。その内P1069で
は落とすと行けないと確認していることを
記憶している。その他で鈴の音は記憶にない。
多分南八に付いたときに外れたのだらうと、
帰路は注意しながら歩いた。

結果、どこにも無かった。

あの鈴は、山上ヶ岳の松清小屋で健在だっ
たみつ爺から20年ほど前に買った、修験道
の行者が腰に付ける逸品だった。

三日の戸開けの日に山上ヶ岳に登り、久し
振りに開いている松清小屋に寄り、跡継ぎの
男にみつ爺から買ったと言ったら大層感激

されたばかりだった。

いのちを落とすよりましだと、気を取り直し、この厳しい山歩きで身代わりになってくれたと思えば般若心経を唱えた。

ガッカリして南八人山からの下りの目印のテープを回収して下ったら何だか変だ。記憶にないところを下っている。

スマホのGPSも、行きの中八人山の手前でフリーズ状態になり動かなくなったので再起動した。すると登りの軌跡を辿ることは出来なくなり、現在歩いているところが記録されていく。地図とコンパスで下ることにした。行きの時と比べると少し西に振っている。このまま下ればモノレールと出逢える筈だ。カンは的中して、しばらくするとモノレールが現れた。しかも登りの時よりも楽な尾根だった。一つ西の尾根を下った様だ。すぐに登りの時にモノレール分岐にぶら下げてきた長目のビニールテープが目に入った。

14:02 ④のプレートとピンクテープに辿り着いた。良かった。矢張り要所にはマーキングが必要だ。登りは一時間掛かったが、下りは30分で下った。

ラジオも熊ベルも無いと、熊の巣の様な山だから急に意識しだした。

御加護があるように不動明王や役行者の御真言を唱えたり般若心経を唱えたりして歩いた。またモノレールのレールを石で叩くのが最も効果的に思われた。

レールにしがみつきながら急峻な道を下った。

登りは見るもの全てが新しく、冷や冷やドキドキの連続だったが、下りは冷静に見ることができた。かなりの頻度で栈道、ハシゴが破壊され使い物にならなくなっていた。

15:20 取り付きの植林小屋に着いた。

沢の水が実に綺麗で冷たい。

下着も脱いで頭から水を掛けた。

火照った体に染み渡った。

いつも初めての山頂では記念の石を拾ってくるが、今日は形のよいのがなく、河原で水浴びをしながら探していたら六方晶形単結晶の子供の拳ぐらいある石を見つけた。小豆色をしているが不透明である。ガーネットかも知れない。良い記念の石が手に入った。

山抜けのところに差し掛かったが、帰りは迂回して沢を歩くことにした。

朝は余り気付かなかつたが、アマゴが沢山いる。確実に釣れるが、山と一緒にアクセスが悪すぎる。

16:18分 下山。

入り口に登山届箱があり、登山届けを入れて出発したので、無事下山と時間を書いて投入した。

帰路、片川の村にせせらぎの里というのがあったから、車を停めて写真を撮っていたら村のおばさんが不思議そうにこちらを見ている。近づいて行って「良いところですね」と声を掛けた。「山しかないけどの」と返事があった。八人山に行ってきたと言ったら「へ～、一人でかい。熊には出逢わんかったかい、ようさん居るからの」。

それから30分ほど土地の話を聞いた。

十津川村大野は森、大野、片川の三集落で成り立っており、併せて50軒ほど家があるが空き家が目立つ。片川には小学生が三人ほどおり、もうじきまた一人生まれる。スクールバスも村営バスも来ると言っていた。

先月は樫原の息子の家に泊まって、一週間歯医者に通い7本の虫歯を治してきたと言った。診療所は平谷にもあり、ちょっとした風邪や腹痛は診てくれるが、難しくなると樫原か熊野へ出る。熊野の方が近いと言っていた。「車で長いこと走ってきたら、こんな山奥に集落があり、ビックリした」と言ったら、「恥ずかしいよ～」と微笑んでいた。

片川では10軒住んでいて、勤めているのが一人。せせらぎの里でアマゴの養殖が一人。あとは年金暮らしばかりや。もうちょっと歳を取ったら皆都会にでた子供達に引き取られて行くと、限界集落の厳しさを語っていた。

林業で栄えた地だが、廃村もそう遠いことではないように感じた。



単結晶の宝石か?

平成29年5月 73歳誕生記念登山